

学校だより 希望の鐘

ひとつのぼんやりとどしどしひらかない



八戸市立 小中野中学校

平成30年9月13日(木)

No.129 文責：校長
工藤聡

「チャンスの前にして降りる選択肢はない！」

今週の土曜日から、市中体秋季大会(新人戦)が始まります。いつも練習を見ているわけではありませんが、それでも3年生が引退した頃に比較すると、格段にレベルアップしてきた感じがします。

出場する1・2年の選手は、もちろん「勝ちたい」と思いますし、吹奏楽部や報道部のみなさんは「勝たせたい」という気持ちで応援するはず。引退した3年生も、後輩の活躍を心から願っているはず。ですから、そうした気持ちを「チーム小中野」として一つに結集し、学校全体で戦ってほしいと思います。

そんなみなさんに、読んでほしい記事があります。現在は休養していますが、メジャーリーグで活躍したイチローについてのものです。

イチローの入団時にオリックスで空き番だったに過ぎない「51」は、野球を愛する者にとって特別な数字となり、ファースト・ネームを登録名にすることも珍しくなくなった。そんなイチローは、「小さなことの積み重ねが、とんでもない所へ行く唯一の道」と、かつて言っていた。

1992年にドラフト4位でオリックスへ入団した鈴木一朗は、1年目こそ一軍で24安打しか記録していなかったが、2軍のウエスタン・リーグでは・366という圧倒的な高打率で首位打者に輝き、ジュニアオールスターでも代打で決勝本塁打を放ってMVPを手に入れている。その活躍ぶりは、翌年の大きな飛躍を予感させた。しかし、1993年もウエスタンリーグでは・371をたたき出すも、一軍での出場機会は増えなかった。それでも、シーズン・オフに参加したハワイ・ウィンターリーグでMVPに選出されると、仰木彬監督が就任した1994年は若手の成長株と期待され、登録名も「イチロー」に変える。そして、4月9日の開幕戦に二番センターでスタメン出場すると1安打を放ち、ここから日本新記録となる210安打を積み上げるのだ。

この年の夏、すでに新たなスター出現と注目されていたイチローに初めて話を聞いた。すぐに頭の回転が速いとわかる話しぶりに引き込まれ、あえてこんな愚問を投げかけてみた。

「公式戦最後の打席を前に打率は4割ちょうど。次の打席に立ちますか？」

そう、その打席に立たなければ、日本プロ野球初の4割打者が誕生する。しかし、打席に立って凡退すれば、その偉業は達成できなくなるという意味だ。イチローはもちろん、その意味を理解したうえで即答した。(ちなみに、田端陸玖くんも絶対打席に立つと言っていました。)

「立ちます。だって、そこでヒットを打てばいいわけですから。仮に凡打で打率が・399になったとしても、また4割に挑戦することはできる。目の前にチャンスがあるのに、他の何かを守ろうとして、そのチャンスにトライしないという選択肢はないですね」

一軍では実質1年目の20歳の言葉としては驚きだが、それまでに交わした会話から、期待通りの答えだと感じた。(中略)

この年からイチローは、7年連続で首位打者を手にする。

「目の前にチャンスがあるのに、他の何かを守ろうとして、そのチャンスにトライしないという選択肢はない」という言葉もそうですが、それを言ったのはまだ20歳だったことがすごいと思います。みなさんといくつも変わらないわけですから。

1・2年生にとっては、新人戦なのですから、来年6月の夏季大会へ向けてのスタートと考えてもいいと思います。ですから、守るべきものは「コナ中プライド」のほかは何もありません。いいスタートをきれるように、負けても次の挑戦につながるような戦いをしてきてもらいたいと思います。野球部でいえば見逃しの三振よりは空振りの三振を、ソフトテニス部やバレーボール部なら、オンザラインの微妙な所にきたボールを、黙って見ているよりも積極的に打ちにいったり取りにいく姿勢を、剣道部であれば一本取ってリードしていても、次の二本目も積極的にねらいにいく試合を、卓球部ならツッツキでつないでばかりでなく、チャンスがあればスマッシュや三球目攻撃をするという意識を持って臨んでください。それが「小さなことの積み重ね」となり、「とんでもない所(来年夏季大会の優勝)に行く」唯一の道となるのです。3年生は、後輩の戦いぶりが気になるわけですが、高校説明会や実力テストなど、今後の受検に向けた重要な日程が控えています。それに集中することが「チーム小中野」として戦っている後輩への大きな励ましとなると思います。

それぞれの学年、それぞれの部、それぞれの生徒が自らの目標に向かって気持ちの面で負けない、納得のいく三日間であってくれればと思います。(昨日の壮行会での校長あいさつを編集しました。)

とても、とても、とても残念なことです

一昨日、小中野地区に住んでいる方から、「お叱り」の電話をいただきました。「夕方の5時過ぎになると、下校する生徒の中で、『ギャー』という大声を出したり、不必要なくらいの声で笑ったりするなど、大変うるさい。暗くなった7時頃にも、同じようにうるさくなる。家の中には、具合の悪い人もいるので、困っている。これは、4月中旬からだ。さらに、道路を4人、5人と横に並んで歩いていて、とても危ない。7時を過ぎて真っ暗なのに、男女でたむろしていることもある。」ということでした。私が電話を受けたわけではありませんが、とても憤った（イキドオル：激しく腹を立てること）感じだったということです。「お叱り」の内容は、次の4点だと思います。

①夕方の5時過ぎに、奇声を出しながら帰る生徒がいる。→現在、3年生は学習会を行っており、昨日も5時頃までやっていたから、たぶん3年生ではないかと思われます。

②7時頃も、同じように奇声を出しながら帰る生徒がいる。→5時頃は、ほとんどが男子の声のようですが、7時は女子の奇声が多いようです。ちょうど延長した部活動が終わって帰る頃ですから、こちらは1・2年生ではないでしょうか。

③横に何列にも広がって歩いている。→これまで何回も地域の方に指摘されてきたことです。朝の登校は、友達と一緒にせいぜい2・3人ですから、そんなに横に広がるということはありませんが、授業が終わったり、部活動後は一斉に帰るためにどうしても広がってしまうようです。楽しく話しながら帰りたいという気持ちはわかりますが、危険きわまりない（キワマリナイ：この上ない。はなはだしい）行為です。車にひかれる可能性もありますし、車を運転されている方にとって大迷惑です。

④真っ暗な中で、男女でたむろしている。→友達同士でいつまでも話をしていたい気持ちもわからないではないですが、時間が時間です。普通はいないはずのところに、何人も中学生がいては、近所の方もギョとするはず。しかも、そこから暗い夜道を帰らなければならないのですから、危険も伴います。改善されないのであれば、今後の延長練習も「許可しない」ということにもなりかねません。

今回のことで、私がとても残念だったのは次の3つです。

1つ目は、ほとんどの生徒はきちんとやっているのに、奇声を出す人、横に広がって歩く人、夜遅いのにたむろしている人たちのおかげで、しっかりやっている人達まで変な評価をされてしまうことです。

2つ目は、奇声を出すことも、道路を横に広がって歩くことも、これまで何度も注意したり指導してきたにもかかわらず、相変わらず改善されないことです。わからなかったり、気づいていないのであれば教えてあげるのですが、自らダメなこととわかってやってしまうのはどうしてでしょうか。人様にご迷惑をかけているという点では、万引き等の犯罪と同様かもしれません。

そして3つ目は、地域の方々に多大のご迷惑をかけ、輦轡を買った（ヒンシュクヨカウ：良識に反する言動をして人から嫌われたり軽蔑されること）ことで、これが一番の残念なことです。昨年度、小中野中は創立70周年を迎えることができましたが、偏に（ヒトエニ：ただそれだけが原因や理由であることを強調する気持ちを表すこと）地域の皆様のご支援とご協力があったからです。だからこそ校舎3階に「おかげさまで70周年」の看板を掲げたのです。それが今回のことでは、恩を仇で返す（オンヲアダデカエス：身に受けた恩に感謝するどころか、かえって害を加えること）ようなものです。これからも、小中野中は地域に助けられながら存在していかななくてはいけないわけですから、申し訳なくたまりません。

昨日開いた臨時の全校朝会で、戸来先生も言っていました。みなさんは学校でとても頑張っています。昨日6校時の壮行会も、私がこれまで経験した壮行会の中では、最高のものでした。各部のスキのない決意表明、3年生の大きな声援、生徒会のスムーズな司会等、みなさんにはこれだけの力があるんだということを、来校した保護者の方々にも見せてくれました。しかし、そういったことも、一昨日のようなことがあっては台無し（ダイナシ：その価値が失われること）です。ほんの少し、心の中で気をつけることで、誰でもできることです。みんなで声を掛け合いながら、二度とこのような「お叱り」を受けることのないよう注意していきましょう。

お電話をくださいました方、日頃から何かとご迷惑をおかけしている地域の方、本当に申し訳ありませんでした。このほかにも、ご迷惑をおかけしていることがあれば、遠慮なく電話等をしていただければと思います。生徒の健全な成長のため、よろしく願いいたします。すみませんでした。校長として、心より謝罪いたします。